

大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

大学名	近畿大学
整理番号	AR07
事業名	日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、「近畿大学国際化のビジョン」の戦略構想のもとに発足させた「近畿大学日露人材育成プロジェクト」を本事業で推進し、日本の得意芸である「モノづくり」を中心に、日露間の企業で活躍できる中核的なエンジニアの育成を目指して実施されたものである。 事業展開では、短期人材交流プログラム、交換留学プログラム、学位プログラムの3タイプの交流を設計し、それぞれに対して一定の成果を得ることができた。特に、新規科目の開講や単位互換の推進を中心とした質の保証を伴う交流プログラムを実施し、単位互換科目対応表を整備することで、派遣前の日本人学生がどの程度の単位互換が可能かの見通しを立てられるようにした点は評価できる。また、「近畿大学モスクワ・サンクトペテルブルク事務所」を開設する等、日本人学生の送り出しに対する環境整備を進めるとともに、ロシアにおいて日系企業からの支援を受ける等の工夫や、チャットコラボレーションツールを用いた日露教員間の円滑な連携により日本人学生への連絡体制を構築した。更に、受け入れたロシア人学生のために「ロシアプロジェクトオフィス」を設置し、グローバルエデュケーションセンター及び理工学部と連携を取りながら、常駐の教職員が個々の学生に対応できるようにした点も優れている。これらの取組とともに、派遣・受入ともに目標値を越える交流学生数を達成できたこと、日本とロシアとで製品開発プロジェクトを推進する中核的人材育成の枠組が確立できたことは評価できる。 一方で、当初の計画どおりとはいえ、派遣・受入ともに3ヶ月未満の単位取得を伴わない留学が主である点、単位互換を一部導入しているものについても、他大学の参考となるようなシステム化が必要であること、ロシア人学生のキャリア形成には魅力的ではあるが、日本人学生に対するメリットが見出しにくいこと等については、今後の対応が望まれる。 最後に、国際情勢等を踏まえつつ、これまでの事業の成果をいかし、我が国の大学教育を牽引され、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	